

令和3年度 全国私立中学高等学校 全国私学教育研究集会京都大会に行ってきました！！

10月21・22日（木・金）に京都の国立京都国際会館・ザ・プリンス京都宝ヶ池で行われた全国私学教育研究集会京都大会に参加してきました。

1日目は全体会で、洛西中学高校オーケストラ部の演奏の後に「教育政策と私学情勢について」と題して吉田晋私立中高連合会会長および私学教育研究所平方邦行所長の報告がありました。続いて「京の文化」と題して冷泉家時雨文庫常務理事の冷泉貴実子氏の記念講演を聴き、氏が指導する京都光華中学高等学校の女生徒の「和歌披講」があり、京文化の一端を垣間見ることができました。

2日目は、私学経営部会に参加し、午前中は京都精華大学学長ウスビ・サコ氏の基調講演「真のグローバル化を目指して！～日本の子ども達に伝えたいこと～」を聴き、続いて京都私学振興会理事長である藤林昭一氏の実践報告がありました。午後は「激動する時代の中で撓（たわ）まぬ私学経営は」と題して、東京、三重、鹿児島にある3つの私立高校の理事長さんがパネリストとなり、姫路女学院中学高校の摺河祐彦理事長・校長が司会進行でパネル・ディスカッションが行われました。

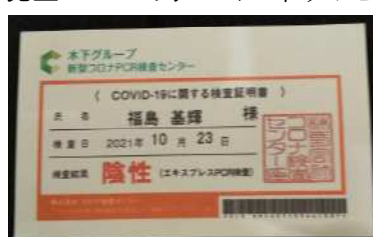
どれも興味深いプログラムでしたが、一番印象に残ったのは、ウスビ・サコ氏の講演でした。サコ氏は西アフリカのマリ出身で高校までマリで勉強し、国費留学で中国の大学で6年間建築を学び、その後京都大学の工学部でさらに建築を深め研究者になり、30年間日本で研究生生活をおくり、外国人として初めて日本の大学の学長になりました。完璧な日本語を話し、豊かな異文化体験をしてきたサコ氏の話にはとても説得力がありました。氏は、日本人がグローバル



京都精華大学学長 ウスビ・サコ先生



京都光華中学高校の和歌披講



伊丹空港PCR検査陰性証明

化を目指す第一条件は「日本」を知らねばならないことだと断言します。グローバル化された社会に於いて、最も重要なものは、「個」としての「自我確立・自己実現」だとし、今までの日本のマスの枠（フレーム）の中で教育する手法では、アイデンティティを確立し、グローバルな人間としてこれからの「共生社会」の中で生きるのには限界が見えてきたと言います。自分自身が日本人としてのアイデンティティを確立するには、まず「日本」を知るべきだということでしょう。グローバル教育というと、ふつうは英語を学び、外国事情を知ることになるのですが、多様な人々と共に生きていく時に揺るがされる自分は何者か、今まで自分が生きてきた日本はどういう国なのか、学ぶ必要があるということです。とても参考になりました。

23日（土）朝に、伊丹空港でPCR検査をし陰性を確認して、函館に戻ってきました。

2021年10月29日（金）